



今回は、本だよりを本日の研究会の資料とします。
それでは、この資料に沿って、本年度の「小中一貫教育の研究」について説明します
しますので、よろしくお願いします。

1 「9年間プラン」の改善

本日より本年度の「穂波東校小中合同小中一貫教育研究会」をスタートします。

まずもって、この会の名称は長いので、通常は「小中合同研」と略したいと思います。

さて、本年度の小中合同研のテーマは、「生きて働く9年間プラン」(☞ お気づきの通り新学習指導要領のキーワードを引用しています!)です。

(1) 9年間プラン

「9年間プラン」は「9年間の教育活動プラン」の略であり、これは穎田校から始まった飯塚市オリジナルの小中一貫教育の取組の一つです。先生方にはご理解いただいているこの「9年間プラン」を改めて定義・説明すると次のようになります。

「9年間プラン」⇒各中学校区で定めた小中一貫教育の柱（例えば学力向上、豊かな心の育成など）において、前期・中期・後期ごとに教育目標とその達成に向けた教育活動をまとめた小中一貫教育の全体計画。これにより中学校区の小中の教職員が共通理解の下、小中一貫教育を進めることができる。

9年間プランのように、9年間を3区分し、「前期→中期→後期」へと「ホップ・ステップ・ジャンプ」と児童生徒の成長の姿（教育目標）と、そのための手立て（教育活動）をまとめた全体計画は、小中一貫教育を進めていく上でとても有効です。

飯塚市では、毎年度、各中学校区ごとに9年間プランを作成し、年度の初めにその内容を中学校区的全職員で確認し合います。そして、年度途中に「9年間プラン」に基づく実践交流等を行い、年度の終わりに総括を行います。そして、このような取組により一定の成果を積み上げてきました。

(2) 9年間プランの課題

筆者はこの9年間プランの持つ効果を認めつつ、一方で改善の余地を感じていました。穎田校で9年間プラン誕生に関わってきた筆者がこのように述べることは「いかがなものか!？」と思いますが、正直なところそのように感じていました。

9年間プランは、各中学校区で小中の教職員により組織的・計画的に児童生徒を9年間を通して育てていく上でとても有効ですし、筆者自身それを実感していました。もし、この9年間プランが無ければ、各中学校区の小中一貫教育は漠然としたものになったと思います。

しかし、一方、「この9年間プランにより中学校区が抱える課題が解決できた!」と実感したことは正直なところありませんでした。9年間プランの取組が、中学校区の課題解決につながるような、言わば、「生きて働く9年間プラン」になるためには、更なる改善の必要があると考えました。

(3) 生きて働く 9年間プラン

課題解決につながる9年間プランにするためには、とても単純なことです、「9年間プランの中に課題を盛り込めばよい。」というのが結論です。そのイメージとしては、次の図を参照して下さい。

令和元年度 飯塚市立小中一貫校 穂波東校「9年間の教育活動プラン」

穂波東校学校教育目標 社会を生き抜く力の根っこを育てる

校種		小学部						中学部		
学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
期		前期			中期			後期		
目 標	知	学力向上								
	徳	豊かな心								
	体	体力向上								
取 組	知	学力向上								
	徳	豊かな心								
	体	体力向上								
課 題	知	学力向上								
	徳	豊かな心								
	体	体力向上								

従来のものに課題が加わっただけで、見た目には、大きな変化は感じられないと思います。

ちなみに課題をまとめる際は、このための会議を別途持つわけではなく、年度末に行う「教育指導計画書に沿った反省職員会」で確認された内容を基にまとめます。（このようなことも無理・無駄を無くす上で大切です。）

さて、これだけで「生きて働く9年間プラン」になるのでしょうか。いいえ、ここでもう一つ手を加える必要があります。それは、まとめられた課題の中で、小学部・中学部で力を合わせ、正に総力戦で取り組まない限り解決しそうな課題を太字にするなどして、明確に表すことが必要となります。

（この太字などで表す課題を以下「小中重点課題」と表記します。）

「小中重点課題」は、本来であれば、小中の全職員で協議しながら定めるところですが、今回は初めての取組ということで、小中経営部会で協議し、次の通り設定しました。

令和元年度 穂波東校「小中重点課題」

- 1 活用力の育成（「全国学テの活用力を問う問題」において小中ともに全国平均以上）
- 2 不登校児童生徒の減少

2 「小中重点課題」の解決に向けて

9年間プランに表された「小中重点課題」の解決に向け、その取組の主体となるのが本日よりスタートする「小中合同研」です。

本年度は、前述の通り「小中重点課題」が二つなので、「小中合同研」を「学力向上部」「生徒指導部」の2部構成とし、それぞれが「小中重点課題」の解決に向け、方策を練り、実践し、その内容を評価するなどして、年間を通して取り組みます。

本日の「小中合同研」の中で、「学力向上部」「生徒指導部」のグループ分けについて説明を行い、その後に各部で課題解決に向けた方略について協議をしていただきますので、よろしくお願ひします。